

1 主題名 勇気をもって A(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

小学校1学年及び第2学年の内容項目 A(1)は「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」をねらいとしている。これは、中学年の「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」や高学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」につながっていくものである。低学年の発達段階においては、大人に言われたことをしっかり守ろうとする中で、よいことか悪いことかを考えることができるようになる時期である。しかし、児童自身で善悪の判断をつけて行動にうつすことはまだ難しく、影響力の強い友達に流されてしまい、よく考えずに同一行動をとってしまう傾向がある。このような特性から積極的に行うべきよいことと、人間としてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを想起させ、勇気をもって自分の正しいと思ったことを進んで行うことができる態度と意欲を育てていく必要があると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

(調査日 令和4年9月2日 調査人数30人)

1	よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行うことができますか。	はい	28人	いいえ	2人	
2	友達がよくないことをしているのを見たことがありますか。	はい	25人	いいえ	5人	
3	そのとき、あなたはどうしましたか。(自由回答)					
	注意した	18人	先生に言った	14人	黙っていた(言えなかった)	5人
				だめだなと思った	3人	

本学級の児童は、2学期が始まって友達との仲もより深まり、声を掛け合い協力しながら生活している。同じ内容項目の教材「わすれられないえがお」を6月に学習した際は、謝った方がよいと思っても謝れない場面を取り上げ、正しいと思ったことは進んで行った方がよいこと、謝ることで自分の心が軽くなったり相手も嬉しくなったりするという意見に多くの児童が賛同し考えを深めることができた。

事前調査の結果によると、クラスのほとんどの児童が自分は善悪の判断ができ、よいと思うことは進んで行っていると回答している。また、友達の不正に対して注意したり正そうとしたりすることができると答えた児童も多くいることが分かった。しかし、実際の学校生活では、目先の利益を優先してしまったり、自分に不利益があることについてはごまかしたりうそをついたり善悪の判断をつけられず望ましくない行動をとってしまう児童の姿も見られる。また、友達がいけないことをしていても黙って見ていたり、自分の考えよりも周りに流されてしまったりするような状況がある。以上のことから、善悪を正しく判断する力を身に付け、よい行いをした後のすっきりした気持ちを味わうことで、自分から進んで正しい行動をとろうとする力を育てていきたい。

(3) 教材について (教材名 「おれた ものさし」 出典 「新しい道徳2学年 東京書籍」)

本教材は、先生のものさしを折ってしまったのぼるが、弱い立場のひろしのせいにしようとする場面から始まる。それを見ていた主人公のぼくは、以前のぼるから壊れた下敷きを押し付けられ自分のせいにされたことを思い出す。ごまかそうとするのぼるに対して正しいことを言おうか葛藤するものの、最後には毅然とした態度で折れたものさしを渡す姿が描かれている。迷いながらも勇気をもって正しい行動をしようとするぼくの気持ちを取り上げ、自分だったらどうするか登場人物に自我関与させながら授業を展開していく。その中で、善悪の判断をし、正しいと思ったことを進んで行うことの大切さに気付くことができるようにしたい。

3 関連

- ・生活科「町探検」、体育科「ボールゲーム」等各教科においてグループ学習を行う際は、学級内の友達関係にとらわれ、ものおじしたり、引っ込み思案になったりすることなく、自分の考えを発言したり、どんな立場であっても何が正しいか判断して実行できるようにする。
- ・係活動や清掃活動、休み時間の過ごし方等教育活動全体において、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして「善悪の判断」について考える機会を設けていく。その中で自分のよいと思ったことを進んで行うことができる意欲と態度を育成する。

4 本時の指導

(1) ねらい

悪いことをごまかそうとする友達を目の当たりにして葛藤する主人公の気持ちを考える活動を通して、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

(2) 資料・準備

・タブレット端末・パソコン・電子黒板・場面絵・登場人物のお面

(3) 展 開

☆「論理的思考を育む働きかけ」

主な活動と発問	予想される児童の反応	支援の手立て ○評価
1 問題意識をもち、学習課題について話し合う。 ○友達がよくないことをしているとき、あなたはどうしますか。	・注意するよ。 ・何も言えないな。 ・よくないと思うけど、何もできないな。	・学校生活の中で友達がよくないことをしている状況を想起させ、スカイメニューのポジショニングで自分の考えを表示することで、本時の主題に関わる問題意識をもてるようにする。
2 教材「おれたものさし」を読んで話し合う。 ○のぼるがひろしにものさしを持たせているのを見たとき、「ぼく」はどんなことを思ったでしょう。 ○「ぼく」はむねがドキとしたとき、どんなことを思ったでしょう。	・どうして人のせいにするの。 ・ひどい、のぼるがやったのに。 ・ひろしがかわいそうだな。 ・あの時と同じだ。 ・また人のせいにするなんて。 ・ぼくもあの時嫌だったから、今度はひろしを助けよう。	・登場人物がどんな性格なのかを確認しながら人間関係を板書に整理することで、状況を理解しやすくする。 ・ぼくが過去に同じような経験をしたことを確認し、葛藤しながらも正しいことをしなければと感じている気持ちを捉えられるようにする。
◎のぼるのところへ行って、おれたものさしを渡した「ぼく」は、何と言ったでしょう。	【ぼく】 ・これはのぼるがやったんだろう。 ・ひろしのせいにしてはだめだよ。 ・自分で謝った方がいいと思うよ。 ・先生に正直に言った方がいいよ。一緒に行こう。	・自分がぼくだったらどんな言葉をかけるかワークシートの吹き出しに記入することで、登場人物に自我関与しながら主体的に考えることができるようにする。
(1)自分の考えをワークシートに記入する。		
(2)ペアで話し合う。	【のぼる】 ・何だよ、うるさいな。 ・分かったよ。 ・ごめんね。 ・ひろしに悪いことしちゃったかな。	☆役割演技を行い全体で意見を共有することで、児童相互の考えを深め、ねらいとする道徳的価値に迫ることができるようにする。
(3)役割演技をし、全体で共有する。		○善悪の判断について考え、よいと思ったことを進んで行おうとする気持ちが高まったか。（発言・ワークシート）
4 本時の学習について振り返る。 ○友達がよくないことをしているとき、あなたはどうしますか。	・よいと思ったことをすると気持ちがすっきりするな。 ・だめなことはだめという強い心をもって生活しよう。 ・これからは、勇気をもって自分の正しいと思ったことをしていこう。	・導入で提示したポジショニングを活用し、今の自分だったらどうするか再度考えることで、これからの自分について考えたり、友達の心の変化に気付いたりすることができるようにする。